



Dining

奥にタイルの床と板張り勾配天井のインナーテラス風の空間を、部分的に内装を変えたことで、リビング側から見たとき「奥にもう一部屋あるのかな？」という印象に。壁には白い上げ下げ窓を並べ、リスミカルなアクセントに。

【素材】床はオーク無垢材をラウワックス仕上げ。奥は輸入建材を扱う「アドヴァン」のタイル。壁はDIYで珪藻土塗り。傾斜天井部分は板張りにして、梁をDIYでエイジング加工。

【配】白い上げ下げ窓を南側に4連、東側に2連。パントリーとの間の壁に木戸つきの小窓。

【照明】ペンダント2灯。手前はインテリアショップ「nico and...」、奥はアンティークショップ「オールドフレンド」で購入。

リビングとダイニングを別に配置したのがポイント。それぞれのエリアの個性を損なうながらも、視線が奥まで抜けて、広がりを感じられます。天井15坪で、仕切りの多い間取りでも、狭さにはまったくありません。



LとDとKが独立

Style 14

壁面に包まれる落ち着きと
適度な広がり感で暮らしやすく

太田邸(夫婦+子ども1人) 設計/プランボックス



木戸をつけた小窓で半戸外を演出した、インナーテラス風のスペース。リビングとは別にもうひとつのソファを置いたくつろぎの空間です。

無垢のオーク材や珪藻土、大理石などの洗練された素材使いが目を引きLDK。新築時、敷地はゆとりがあったようですが、コストダウンを兼ねて建物のポリエームをあえて抑え、素朴なインテリアの小さな空間で、家族がほっこりくつろぐ家をイメージしたとか。広すぎない心地よさ。が感じられるように、間取りはリビングとダイニングを分け、キッチンもセミクロスドで独立させました。小さな家でLDKそれぞれを分離すると狭く感じられそうですが、LDを斜めに配し、遠くまで視線が届くようにしたり、ダイニングがつづけてインナーテラス風のスペースを設け、奥行きを演出するなど、適度な抜け感を生む工夫を盛り込みました。ほどよい落ち着きと、気持ちいい広がりの方角を、見事に獲得しています。